

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ころぼっくる幼児期親子療育

公表日 2025年 12月11日

利用児童数 45

回収数 31

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	○				足元が少し寒いことがある。もう少し広いとよい。ちょうどよい広さだと思う。	運営上最大限の広さを確保していることを周知していく。暑さ寒さの感じ方を利用児にも確認しながら冷暖房等の空調で調整する。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	○				十分だと思う。一人に一人ついてほしい。	基準以上の配置であることを周知していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	○				設備はたくさんある。照明がもう少し明るいといよい。	職員にも明るさへの意識を促し、必要に応じて照明を調節する。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	○				特になし	子どもの感想を聴き感じ取っていく。	
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	○				どの先生がどの専門か把握できていない。身体の姿勢や感情コントロールのフォローの質問に答えてほしい。安心してできるレベルまで研鑽されていると思います。情報共有や声かけに一貫性があります。	支援員から専門性について自己紹介することなども検討する。保護者の質問を支援員間でも共有したり、答えに納得されたか意識を向けるようにしていく。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	○				特になし	説明周知を継続していく。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	○				親でも気づかない課題に気づいている。子どもをよく見て、こちらの話をよく聞いて計画を作ってくれている。どういふ意図でその遊びを取り入れているか教えてほしい。親からするとこんなものなのかなと見過ごすことも、文章にしてみたら子どもと親の困りごとだと分かりやすい。	継続して計画を検討して、わかりやすくかつ子どもの課題に的確で、保護者の方と共有しやすい計画を作成していく。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	○				特になし	保護者への説明や周知、保護者との支援内容の共有を図っていく。ただ現状での喫緊の課題は市による措置制度が継続しているため、支援開始時期が遅れることがあることである。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	○					計画に沿ってやっていただいています。	保護者への理解を促し、指摘については検討して返答していく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	○					ステップアップしているのを楽しめてよかったです。なぜそのプログラム化の説明を頂けたらより良い。去年もやったこととほぼ同じことをやっている部分が多く感じました。	活動の段階付けや、アレンジについて日々検討していきたい。支援員も楽しめるような環境づくり（おもちゃや用具の更新など）を行っていく。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。			○			特になし。	交流機会はないので、保育所等訪問支援を併行利用しているケースや、事業所の祭り行事を開催した際などに、地域の子どもや支援を受けていない子どもたちとの交流や関係者との共通理解を図っていく。
保護者へ	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。		○				利用者負担のことはわかりません。	見学会から説明しているところもあるが、周知を行う。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	○					支援計画など見せていただけ、ありがたかったです。	子どもに支援が届くように保護者に丁寧にわかりやすく説明していく。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	○					子どもも聞いたようなことをフォローして伝えてくれるのはありがたい。面談を丁寧にしてくれるので安心感がある。	月一度のグループ親さろん（グループガイダンス）を行っているが、情報提供などにも努めていく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	○					子どもの様子をしっかりと伝えてくれる。言葉ややりとりで何に譲ってどうしたのか教えてくれるのはありがたい。話を聞いてくれて助かる。短時間で的確に	伝え合いを継続していく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	○					しっかりと悩みを聞いてくれる。育児や仕事（との両立）のことを気にかけてくれるのは心強い。グループ懇談などで話し合い、答えが出ないときもあるけど、吐き出せて気分はスッキリする。	助言役、聞き手役も継続していく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	○					年長から年中まで2年間子供と私にも寄り添っていただき、悩みに対しても助言・提案してもらい、とても心強かったです。	子ども、それから保護者の気持ちを汲み取った支援を継続していく。

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	○			親子タイムの時間をもう少し減らして、親同士の時間を増やしてほしい。(親同士) コミュニケーションや悩みなどを話す時間が短いと感じます。おやさんの頻度を減らしてもいいと思う。親同士の交流が目的なら、もう少し自由に交流できていいのかなと思う。	あくまで公的な支援が必要な子どものための親支援であることを理解していただき、親同士の交流が子どもの支援につながるように保護者の方に理解と協力をお願いしていく。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	○			園訪問もきぼうしていただきすぐに対応してもらえた。フィードバックも面談早いが書面が遅いので改善してほしい。要望が通っていないものもあり、なぜなのかわからないままのものもある。	返答と、確認を誠実にやっていく。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	○			こまかく連絡を取ってもらっている。活動場所へ出てこれないとき、子どもと直接電話で話していただきました。	継続して意思疎通と配慮をしていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	○			申し訳ありません。どちらもあまり見ていません。あまり利用していません。その都度先生から伝えてもらっている。	デジタル、アナログ、口頭、書面など保護者に残る、保護者に届く伝達を使い分けたり、複数発信したりしながら目指していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	○			特になし。	留意していく。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	○			特になし。	周知・説明を検討していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	○			特になし。	利用者参加の訓練は実施していない。必要に応じてあれば検討していく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	○			多くの先生で見守り、もりあげ、声かけして下さるので安全、安心楽しいです。子ども同士の遊びの場面でも先生方がうまく仲裁、声かけ、橋渡しをして下さるので子どもも理解しやすく、安心して落ち着いて楽しく遊ぶことができているのだと思います。	子どもが表現しやすい環境づくりに尽力しながら、安全確保も工夫していく。
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	○			口を強打してしまった際、迅速に対応していただきました。	発生予防の取り組みを続けながら発生時の連絡、説明を的確に行っていく。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	○			いつも楽しく通わせて頂き、集団生活での困り事もすぐに相談に乗って頂いて親子で心の安定につながっていると感じています。子どものことを客観的に見て下さる場があり、本当に心強いです。親さんでは子どものことを改めて考えることができ、普段は忙しさで過ぎていってしまうことが多いので貴重な時間だなと思います。	子どもさんも親御さんや保護者さんもりリラックスして通えるような場所にこれからもしていきたいと思っています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	○			毎回楽しいようです。ころぼっくるへ行くと、とたんに全力で遊び始め叫びます。ころぼっくるがあるから、保育所や自宅での生活を安定して送っているのかもしれませんが。先生より早く来館したがるほど楽しみにしています。緊張から楽しみの場が変わり、「今日はころぼっくるだよ」と伝え、「ヤッター♪」と喜んでいきます。	継続してその子どもにとって楽しみにできる場所づくりに努めていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	○			月齢が早い時から本当にお世話になって本当に良かったなあと思っています。	良かったです。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
ころぼっくる幼児期親子療育		2025年 12月 11日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		1日利用定員10人を1階(47㎡)と2階(50㎡)のプレイルームの2グループ(各5人編成)に分け、同時並行で発達療育を行っています。	特になし。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		1グループ(子ども5人)に対して療育支援員3人を配置し、内1人は心理担当職員(公認心理師等)として配置しています。各グループには専任の親支援員1人も配置しています。	体制を継続利用のする努力をしています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		プレイルームの配置、遊具の取納については、環境刺激を少なくし、療育プログラムも視覚的にもわかりやすい工夫をしています。玄関・1階はバリアフリーになっています。2階への階段には昇降機を設置しています。	特になし。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		午前中の親子に対する発達支援終了後、各室の換気と清掃を行い、遊具の消毒も実施しています。療育プログラムに合わせて、その都度遊具等の配置を工夫しています。	プレイルームの床マットは経年して変形や変色がみられるので更新を検討していく。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		部屋に入ることが難しい時、部屋に居ることが難しい時は支援員が子どもと話し、とどまる方法を探してみたり難しいと判断した場合は必要に応じて場所を移動している。	特になし。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が中心となって、毎日の打ち合わせ、振り返りミーティング等で各職員が意識し取り組んでいます。	特になし。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ガイドラインで示された評価表を参考にし、事業所独自のアンケートを実施しています。その内容を踏まえ業務改善につなげています。	特になし。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		個別面談、年度末の職員研修で把握している。	職員が発言しやすい状況、機会づくりに事業所として取り組んでいく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	今後、児童福祉法障害児通所支援事業に明るい外部評価を受けたいと思っています。	依頼先を検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年一回の内部研修の実施や外部研修(市乳幼児教育保育支援協働研修など)に参加しています。	特になし。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		紙面で全利用者に配布するとともに、ホームページにも公開している。	特になし。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		各自の発達上の特別のニーズや親子関係の的確に把握し、個別支援計画に反映させています。利用開始時には、親支援員と療育支援員がアセスメントを行います。半年ごとにモニタリング(個別支援計画の見直し)を行っています。	特になし。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当支援員も個別支援計画を作成し、グループ支援員や、児童発達支援管理責任者と検討しながら支援計画を完成させている。	特になし。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援計画に沿った支援を行うために年間2クール(前期/後期)とし、半期ごとに児童発達支援管理責任者(担当療育支援員)と保護者との面談で見直しています。グループ支援員間でも日々子どもとの関わりを検討し修正しながら支援を進めている。	特になし。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		K式発達検査、S-M社会生活能力検査、ICF(国際生活機能分類)に基づいたアセスメントを行っています。	特になし。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ICFの生活機能相互作用図を下敷きにした個別支援計画書(精神機能・活動・参加・環境因子・個人因子)を作成し、それぞれの子どもの長期目標、短期目標に適した週1回の発達療育を行っています。	特になし。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		子ども5人グループ毎に3人の療育支援員チームで、親子タイム、自由あそび、設定遊び等の療育プログラムを立案しています。	特になし。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		発達年齢やグループダイナミクスに応じて療育プログラムを変化させ、季節に応じた年間活動プログラムを組んでいます。	特になし。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		ころぼっくるの発達療育は、個別発達支援が基本です。個別支援計画には小集団遊戯療法による個別支援(情動コントロールなど)が組み込まれています。	特になし。
	20 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前には児童発達支援管理責任者を中心にグループごとに毎回ミーティングを行い、役割分担を確認しています。	特になし。

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に児童発達支援管理責任者を中心にグループごとミーティングを行い振り返りを行っています。	特になし。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		療育は担当者制なので各担当療育支援員が療育記録、面談記録を徹底し、今後の支援に活かしています。	特になし。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		週1回通所の療育ではモニタリングも合わせて行っており、半年に1回は支援計画の見直しを実施しています。	特になし。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		障害児相談事業所ひかりが招集するサービス担当者会議に児童発達支援管理責任者や親支援員、療育支援員がケースに応じて参画しています。	特になし。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		市の早期療育ネットワーク会議に参加し、市の保健推進課の発達相談員や保健師と連携を図りながら支援を行っています。	特になし。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行支援は、当児童発達支援事業所（ころぼっく）の利用児がすでに保育所・幼稚園等との並行通所しているため特に行っていません。今後、保育所等訪問支援事業（れら）による利用児の情報共有と相互理解を図って行きます。	特になし。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		当児童発達支援事業所（ころぼっく）は、放課後等デイサービス（はらっぼ）と併設しているため就学後も継続支援しています。特に就学時には、宇治市の就学指導委員会との連携を密にし、利用児の情報共有と相互理解を図っています。	特になし。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			必要に応じて他の専門機関の研修に参加しています。	特になし。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			通所している子どもの多くは、保育所や幼稚園に並行通園しているため、保護者が障害の問題に向き合う機会が多いと思われます。	特になし。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			療育支援員が毎回療育終了後、保護者に療育の様子を報告し、子どもの発達状況について共通理解を深めています。	特になし。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			親支援員が幼児期の保護者を共同療育者と位置づけ、グループごとに隔週でグループガイダンス（親さろん）を実施しています。	特になし。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			利用契約時に重要事項説明書に基づき実施しています。	特になし。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			療育での子どもの様子や発言からその子どもの意思を判断し、面談で保護者の意向を聞き取っている。	特になし。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			半年に1回は計画書を作成しています。作成後には保護者面談を実施し、その際に計画書の説明を行い同意を得ています。	特になし。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			親支援員は幼児期の保護者を共同療育者と位置づけ、定期的にグループガイダンス（親さろん）や個別面談を行っています。	特になし。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			積極的に実施はしていませんが、療育時間内の待ち合いや歓談するためのスペース（親さろん専用室）を提供しています。	特になし。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			グループ単位に親支援員を配置し、子ども担当の療育支援員と連携しながら個別対応をしています。	特になし。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			年4回（季刊）『ころぼっくの家だより』を発行し、館内の掲示板やHP上に情報を掲載しています。	特になし。

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の外部への持ち出しは原則禁止にしていますが、やむを得ず療育記録を持ち出す場合は上司への申請許可制にしています。データ情報は、法人専用のフラッシュメモリーを利用しています。	特になし。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもや保護者が療育支援員との対話や表情を通してコミュニケーション障害やアタッチメント障害についての理解を深め、小集団遊戯療法の中で他児と関わることで気づきや共感を醸成しています。	特になし。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		イベントへの招待や、図書、ギャラリースペースを設け地域住民の方が気軽に来所できるように努めています。	特になし。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを作成し、職員間で共有しています。保護者の方とも共有できるよう努めています。	特になし。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		府や市の指導に則り、消防や洪水避難計画を作成したうえで、実施しています。	特になし。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		初回面談時等に保護者からヒアリングを実施し、基本情報として書面にしていきます。	特になし。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者からヒアリングを行い、それを基に一覧にしています。特におやつ提供時には、職員間でダブルチェックしています。	特になし。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		感染症や熱中症、事後などの対策を支援員と共有しながら支援を行っている。	特になし。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		利用のしおりや重要事項説明などの機会に伝えている。	特になし。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		些細な事故も含めて事故報告書が児童発達支援管理責任者に提出されると事業所内で共有しています。	特になし。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		府の研修等に参加しています。	特になし。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		激しい自傷・他傷行為がある場合、本人のケガを防ぐために毛布等で包むこと、支援員と利用児が活動に注力するためプレイルームのドアをロックすること以外、身体拘束は厳禁しています。	プレイルームのドアロックはできるだけなしが最小限にしていきたい。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はらっば学齢期子親療育		
○保護者評価実施期間	2025年]2月26日		2025年4月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 24	(回答者数) 6	
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5	(回答者数) 5	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども支援員の専門的で手厚い人員配置と、支援員の子どもへの発達支援の充実とやりがいの醸成と利用者さんの長期に渡る一貫した子ども支援への安心感の提供が長期に渡って何とか持続していること。	専門的で手厚い人員配置。	支援員の働きやすさ、やりがいにつながる雇用環境の改善。
2			
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門的な支援を提供する上での、支援員への負荷の高さ。	支援員の兼務の多さ。	兼務の軽減、解消。
2	利用者との療育目標の共有の困難さが生じうることもあること。	利用者との対話の機会の少なさ、機会づくりの難しさ。	利用者との対話の機会の企画設定。
3			